

範囲なのですが、銀行ということで紹介しておきます。戦後物件は今回ほとんど取り組んでいないので、今後の課題なんです。これは土岐さんに無理やり銀行の沿革に入れていただいたのですが、今、設計事務所最大手の日建設計の前身・日建設計工務で設計してまして、昔の建築雑誌にも出ています。担当者は東京帝大の塚本さんという人がやっているのですが、施工は竹中工務店で血統としては抜群ですし、周辺の県庁や松山城、路面電車、歩道の目線を考えると結構重要なものだなと私は思っています。

総括のまとめとしては、網羅的にいろいろなものを業として紹介できたことは意義があると思っております。それから子どもたちが実物に触れながら県下の産業を学ぶということを考えると生きた学習教材になり得るものはたくさんあるので、本当に活用できる資料だと思います。県民の財産として後世に残していく活動にも皆さんにご協力いただきたいなというところで私の話を終わりたいと思います。



伊予銀行本店（松山市）

○岡崎 ありがとうございます。

二村先生から業で見ていく産業遺産ということで、第一次産業にきら星のごとく魅力あるものが数多くある、かつ報告書に載っていないからといってすぐに壊さないでくださいというメッセージもありましたし、群でいろいろな見方をしていくということの魅力。佐田岬エリア辺りを参考に分かりやすく話してくださいました。

それでは、まだまだ続きます。曲田先生には公共建築を中心とした、いわば愛媛の花形ともいべきいろいろな遺産が目白押しですので、そこら辺りから総括を解説いただこうと思います。よろしく願いいたします。

○曲田 私は愛媛の近代化遺産のうち建築分野について紹介させていただきます。

写真は、ご存じ萬翠荘です。平成23年に国の重要文化財に指定されました。設計は木子七郎（1884～

1955）でございます。



萬翠荘（松山市）

近代建築関連の調査報告書につきましては「愛媛温故紀行」と今回の近代化遺産のレポート以外に実は「愛媛の近代洋風建築」が1983年に出ており蓄積がなされています。この3つの報告書で愛媛の近代建築は、網羅できます。私の方ではまずは官庁建築、学校建築、一部銀行建築に関連しての話題、そして時間が許せば戦後モダニズム建築についてもご紹介していきたいと思っております。

愛媛の近代建築の成り立ちは設計・施工については、当然ですが、明治初頭期は大工棟梁による西洋技術習得と模倣、その後、明治の近代化が進む過程での官公庁営繕等によるリード。そして、大正・昭和期には民間建築家が登場しました。もう1つの要素としては、地域の篤志家の役割が結構大きい。多くの学校建築や公民館にその足跡が見られます。



愛媛県庁（松山市）

次は、愛媛県庁本館です。昭和4年竣工で、中央に緑のドームを配しまして、左右比翼の対称が荘重です。設計は先ほどの木子七郎です。木子七郎という方は、ご先祖は代々皇室に仕えた棟梁の家系です。東京大学を卒業して設計事務所を開設。新潟県庁舎や大阪、東京の日赤本部の設計に携わりました。松山市出身の実業家である新田長次郎の娘婿となった縁でこの地で多くの建築に携